

# SA 吹田 通信 第11号

2004年4月

発行 SA 吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506

TEL&FAX 06-6876-1437

## ◆◆ 2004 年度 S A 吹田 総会 開催 ◆◆

4月21日午後、北千里公民館で、SA吹田の総会が開催されました。再発足後3回目となる総会で、特に今年は16期生18名が新しく加入され、会員数が90名を超える勢いとなり、大いに意気上がりました。ご来賓の老人総合センター川西所長から、「17期目を迎えたシルバーアドバイザー養成講座は、各方面の関心の度合いが高く、今年から堺市で3コース120名の規模の南部講座も開設される運びとなり、北部160名と合わせると毎年280名の修了生を送り出して行くことになる。SA修了者の各地での活動分野は、大層多岐に渡っているとのこと、これからのご活躍を期待している」とのご祝辞を頂戴しました。

総会は、丹羽会長を議長に選出することから始まりました。

総会当日の会員数89名に対し、出席31名、委任状35名、計66名で総会は成立しました。

議事は1号議案2003年度の活動報告および会計報告、2号議案2004年度の活動方針案、3号議案2004年度の予算案、4号議案役員を選任と順調に進み、いずれも拍手を持って承認されました。特に、議案説明の中で強調されたことは、

①ブロック内の連絡、協力体制の一層の強化、②17期生の加入促進、③旧会員への復帰の勧誘といった組織力の強化、④オリンピック財団こども夢基金から、13万円の助成金をいただいたので、これを基に、SA吹田とその会員はもとより、吹田市まちづくり市民塾のメンバー、SA修了者でも独自で活動されている方、趣旨に賛同して新たに参加を希望される一般の方々を糾合して、「SA吹田おもちゃづくり市民塾」(仮称)を創設し、手作りおもちゃの一層の拡大を図ること、⑤歌体操は、数多くの小グループでいろんな施設で活動されているが、相互の応援体制の確立や、歌体操が正規の授業で取り上げられていないなかで、新規修了者に研修に機会を設けなくても良いのか・・・などなど、緩やかな連合体を形成して行きたい。以上の点が強調されました。

続いて、新年度の役員を選任に入りましたが、ここでは「SA吹田のようなボランティアグループでは、多数の人が役員を経験し、皆で運営して行くことが大切。役員就任を要請されたら、本人やご家族のご病気といった特別の事情のない限り、お引き受けいただきたい」と強調され、さらに「会長職も3年続けるとマンネリ化してくる。この危険を避けるためにも、次期はどなたかにバトンを渡すので、皆で充分に話し合い、考えて決めていただきたい」と強い意思表示がありました。

なお、連協総会の代議員には、会長・副会長以外の役員の方が選任されました。

総会終了後は休憩をはさんで、会員の村山弘さん(7期・国際)を講師に「真向法——心身共に若くてあるために」のテーマでお話と実技指導に移りました。脳血管障害で半身不随になった長井津氏が、ご自身の運動機能回復の経験に基づいて考案された日本で生まれた体操とのこと。毎日3分間やればよい体操との説明でした。

4種類の基本動作で構成され無理なくできる体操でした。

第1動作はマットにすわり前で足を組み足の裏を上に向け、上体をゆっくり前に倒す。

第2動作は同じく座ったままで、両足をそろえて前に出し足首を立てて、上体をゆっくり前に倒す。第3動作は、両脚を左右に開いて足首を立て、ゆっくりと上体を前に倒す。

150度ぐらい開くのが理想だが、徐々に進め無理をしないようにとのことでした。

第4動作は、正座の姿勢から両足の先を開いて割り座をする。両手で支えながらゆっくりと上体を後ろに倒しきり、両手を伸ばし静かに腹式呼吸をする。

指導を受けていつも使っていない筋肉が痛くなったとの声もあったが、なんとなく、気分も爽快、身体も軽くなった感じがしたとの感想でした。

汗も少しかいたところでSA吹田の総会と講演会を終了致しました。

## アンコールワット拓本の保存にご支援ください

西森 健生 (SA15期)

写真やその他複写技術が進歩した現在、古来よりあまり変わっていない単純手法が、今尚生きている事は不思議です。英語でも rubbing copy と訳され、拓本のことを先達は石摺りと言ってきた。また拓本の技術に擦拓という手法が残されていることから、rub なる言葉が使用されるのは納得・・・という感じです。それだけにこの技法は、中国を中心に東西に広がったのではないかとロマンを感じます。その東端が日本なのでしょう。中国のような広大な国で、カリスマ性のある王たちがその意思を伝えるのに、石摺を大いに活用したことは十分に考えられます。紙をはさんで墨をつけ石碑を汚さない、文字を逆さに写し取らないこの手法は、数千年の昔では驚きの技術であったかもしれません。

書家の石川九楊氏が、拓本について「拓本には文字を書いた人があり、それを石工さんがその心を伝えようと技術を競い、そしてその碑を人と自然が守り続けたことに文化以上のロマンとエネルギーを感じる。」という意味のことを書いておられるのを IE の中で見つけたとき、なにかうれしくなったことを思い出します。

この石川さんの「人々のロマンとエネルギー」には、先般 SA15期吹田班でやっている「ドリームネット」の定例会で、アンコールワットの拓本紹介をやらせていただきましたが、あの戦乱の中でも残った石組みとレリーフは、ボルボトでさへ国旗にアンコールワットの正面図を使用したことから見ても、やはり世界遺産に値するエネルギーが在るなあと思っています。そこで、表題の「アンコールワットの拓本の保存にご支援ください」ですが、約10数年ほど前、私や諸先輩がアンコールワットで採拓をし、それを軸にして60本ばかり大阪天王寺美術館で預かってもらっています。その保存維持のためにも、年に1回は展示をやりたいことと、併せて当時採拓をして軸にした人も高齢化してきています。今私たちはこの会をNPO化し多くの人のご支援を得やすいようにしようと努力中です。多分この秋にはNPO法人として活動が出来るのではないかと考えています。昨年は夏に東京のオリエン特博物館で、暮からこのお正月までは京都文化博物館で、またこの夏には岸和田のマドカホールでアンコールワット拓本展を行ないました。NPO法人化しますと、多分毎年企画と予算を出すことになろうかと思っています。吹田市も開発が進み、この地にお住まいの多くの方が田舎をお持ちではないでしょうか？是非日本各地でこの拓本展を続けて開いてカン

ボジアの地であのレリーフを見て、夕日に輝くアンコールワットの逆光シルエットを観光していただけたら、素晴らしい国際交流になると思っています。何なりとご支援をいただけたら幸いです。

## ◆◆ “あいほうぶ吹田”でのボランティア・・・4年目に◆◆

橋 ユミ子(SA14期)

14期生吹田の活動テーマは『吹田市を知ろう、ボランティアを求めて』で、その中の一つの出会いが“あいほうぶ吹田”の重障者の施設でした。24時間誰かに見守られている中で、生きるために頑張っている利用者の皆さんの姿と、それを支えている職員さんや家族やボランティアの仲間を知って、私たち14期生も出会いを大切にしたい気持ちが動機となり、年間行事に参加することになりました。また“あいほうぶ吹田”も地域との交流の広がり期待しておられて、『9月・あいほうぶ祭り』『1月・もちつき大会』『2月・文化祭』と年間行事のお手伝いがボランティアの始まりでした。そこで設備の良い喫茶の場所があって、施設の利用者さんにおいしいコーヒーを飲んでいただきたいとの願いから、運営費より捻出して@50円(菓子付き)で提供したいとの主旨に賛同することになりました。今年で3年目になり、現在は一週間を14期15期16期と連携してかかわっています。施設のみなさんも馴染みが出てきて、いっぱいお話をしてくれる人、「コーヒー好きやからカップにいっぱい入れてや」と注文をつける人。昼食後の楽しい憩いの場になっております。去る3月24日SA14期として、このままグループ活動を続けようとの意志を確認し、4年目に向けてのあゆみとなりました。おもちゃづくり等の昔あそびのコーナーも小学校、幼稚園で年2回定期的に活動しています。今後もSA吹田での仲間の広がりを期待しています。

## ★★歌体操フェスティバルで明るく楽しく活躍する★★

-----吹田の歌体操グループ-----

岩城 延重(SA13期)

歌体操研究会(SA修了者他歌体操講習会修了者等で、歌体操研鑽のため自主的に立ち上げられた歌体操研究会。会員数約130名)の主催する、第二回歌体操フェスティバルが、梅田東生涯学習ルーム体育館で、3月30日1時30分から開催されました。参加チームは、全部で21グループ。第一部障害者用歌体操、第二部健常者用歌体操に分れました。第一部では6グループ中、4グループ、第二部では15グループ中8グループと、吹田市内の各グループが、大活躍いたしました。第一部では、「みのりの会」(代表者・佐藤百合子さん)が「さくら」を、「吹三婦人会・長生会」(代表者・唐崎キミ子さん)が「おさるのかごや」を、「千里山バラ」(代表者・上倉ふさ子さん)が「四季の歌」を、「こだま」(代表者橋本一江さん)が「ああそれなのに」をそれぞれ熱演されました。

第2部では「吹田東歌体操同好会」(代表者・堀端孝子さん)が「はな」を、「みのりの会」が「五番街のマリー」を、「第十楠会」(代表者・唐崎キミ子さん)が「好きにならずにいられない」を、「吹三婦人会」が「城ヶ島の雨」を、「こだま」が「キヨシのズンドコ節」を、「カヨウクラブ」(代表者・堀端孝子さん)が「人間っていいな」を、「千里山バラ」が「舞踊曲・タンゴ」を、「吹三婦人会」が「風詩」を、それぞれ日頃から一緒に歌体操を研鑽されている地域の方々と共に出場、明るく楽しく、演技の発表をされました。

私も、歌体操をするようになってから、吹田の歌体操の活発な活動を見聞し、代表者はじめ皆様方が各々の地域で地道に、地域の方々と共に、「寝たきりに、ならない・させない・つくらない」をモットーに、公民館・施設などで、幅広く活動されているのは、私達の誇りでもあり、敬服と感謝の気持ちで一杯です。一日も早く、歌体操グループがSA吹田として、団結して幅広く活動が出来る様になることを祈念している今日この頃です。

### SA吹田 活動予定(5月～6月)

- 5月5日(水) 吹田市子ども野外カーニバル 千里北公園(10時～16時)  
5月29日(土) 第5回ミニ文化交流イベント 桃山台小学校・地域交流室第2  
(午後1時30分～4時)  
5月中旬～6月上旬 藤白台小学校チャレンジタイム 毎週水曜日 午後4回(予定)  
6月19日(土) 吹田市環境教育フェア おもちゃづくりで参加  
メシアター(10時～15時)  
6月19日(土) 亥の子谷コミセン おもちゃづくりで参加 (午後)  
(同じ日に重なりますが、どちらも昨年からの継続なので、手分けしていききたいと思います)

### 2004年度 SA吹田会費納入のお願い

2004年度 SA吹田会費未納の方は納入下さるようよろしくお願い申し上げます。

払込先口座番号 0960-0-178393 加入者名 SA吹田  
年会費 1,000円

郵便番号、ご住所、お名前、電話番号をご記入の上お近くの郵便局からお振込みください。  
(恐れ入りますが振込料70円はご負担願います。)

### 編集後記

総会当日は好天に恵まれ、窓から差し込む陽射しもきつく、汗ばむほどの会場の雰囲気でした。16期生の新会員も加わり今年度、新たに取組まなければならない課題が決められました。会員同士の協力体制を作って取り組んで参りましょう。講演会の真向法体操ではひと汗かきましたが、講師の村山さんの体の柔軟さには驚きました。興味をお持ちの方は講師の方に直接ご連絡をお願い致します。